

長唄正本にみる胡麻点の分類：その2：複合胡麻及び変形胡麻の分類

矢向, 正人
九州大学大学院芸術工学研究院コンテンツ・クリエイティブデザイン部門

新崎, 達貴
九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻コンテンツ・クリエイティブデザインコース

<https://doi.org/10.15017/26449>

出版情報：芸術工学研究. 18, pp.69-83, 2013-03-29. 九州大学大学院芸術工学研究院
バージョン：
権利関係：



長唄正本にみる胡麻点の分類：その 2

複合胡麻及び変形胡麻の分類

Classification of Neumatic Symbol in Nagauta Play Text

Classification of Compound Neume and Deformed Neume

矢向正人¹

YAKO Masato

新崎達貴²

ARASAKI Tatsuki

Abstract

This paper is the sequel of “Classification of neumatic symbol in *Nagauta* play text: classification of single neume.” When examining *Nagauta* play texts published during the Edo period, many kinds of neumatic symbols are found on the right sides of proses. The play texts that include these symbols are limited to those of *Nagauta* pieces that were first performed in public during the period from *Kyoho* era (1716-1735) to *An-ei* era (1772-1780). These neumatic symbols may have had notational information including pitch, duration, kind of voice, etc. However, meanings of these symbols have not been known until today. In this study the typical neumatic symbols appeared in 102 *Nagauta* play texts are examined. First, 172 kinds of neumatic symbols are extracted from these texts. They are roughly classified into three groups: single neume, compound neume, and deformed neume. Second, they are handwritten as bit-map representation. And lastly, they are classified and named based on form in full detail, respectively. In this paper, 58 kinds of compound neumes and 17 kinds of deformed neumes are discussed.

1. はじめに

本稿は、『長唄正本にみる胡麻点の分類：単一胡麻の分類』の続編にあたる¹⁾。長唄正本を見ると、詞章の右側に、さまざまな長さを持つ直線及び曲線による記号が付されているのを目にする。これらの線状の記号は、胡麻もしくは胡麻点と呼ばれる。長唄正本の胡麻は、享保 16 年（1731）初演の《傾城無間の鐘》の正本に見いだされ、以後の正本でその数は増加していくが、安永期（1772～1781）に入ると減少し、安永 7 年（1778）以後の長唄正本から胡麻は見出されていない。胡麻それぞれの向き、長さ、太さなどは、音高、音価、唱法などの楽譜情報を持つ

ている可能性がある。しかし、先行研究から、その対応関係は見いだされていない²⁾。前稿では、胡麻の解読の予備的研究として、多数の胡麻の形状を整理分類した。長唄正本の胡麻は、1 本で胡麻 1 つを形成する

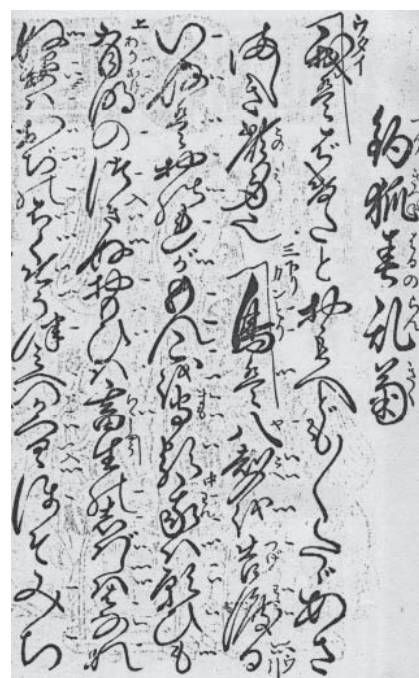


図 1 《釣狐春乱菊》の正本にみる連胡麻

連絡先：矢向正人, yako@design.kyushu-u.ac.jp

¹ 九州大学大学院芸術工学研究院コンテンツ・クリエイティブデザイン部門
Department of Content and Creative Design, Faculty of Design, Kyushu University² 九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻コンテンツ・クリエイティブデザインコース
Content and Creative Design Course, Department of Design, Graduate School of Design, Kyushu University

単一胡麻，2本以上がまとまって胡麻1つを形成する複合胡麻，特殊な形状を持つ変形胡麻に分類される³⁾。前稿ではこのうち単一胡麻のみを検討したが，本稿では複合胡麻及び変形胡麻を検討した。特徴的な胡麻をビットマップデータとして手書き抽出し，形状にもとづく分類を試みた。

2. 複合胡麻及び変形胡麻の分類

本稿では，次の長唄正本及び影印本を参照した。

- ・長唄正本集巻之一（大正6年）川上邦基編，演劇図書同好会刊
- ・古版長唄八種（昭和6年）稀書複製会編，米山堂刊
- ・長唄原本集成（昭和11年～14年）和田正畊之，山本桂一郎，木村捨三編，長唄原本集成刊行会刊より，巻一，二，三，四，五，六，七，十二，十四

- ・江戸長唄絵表紙正本，東京芸術大学図書館蔵，編集者不明，出版年代不明
- ・宝暦明和長唄めりやす集，東京芸術大学図書館蔵，高砂町，村山源三編，出版年代不明
- ・長唄めりやす集，東京芸術大学図書館蔵，編集者不明，出版年代不明

以上の長唄正本の中から，胡麻点が記されている享保16年（1731）から安永7年（1778）までの102曲の正本を検討した。各曲の正本にみる特徴的な胡麻から典型的な172種の胡麻を選び，それらの形状を比較し分類を行った。分類の概要を図2に示す。

検討した172種の胡麻は，1本で胡麻1つを形成する単一胡麻97種，2本以上がまとまって胡麻1つを形成する複合胡麻58種，特殊な形状を持つ変形胡麻17種に分類される。本稿では，このうち複合胡麻及び変形胡麻を

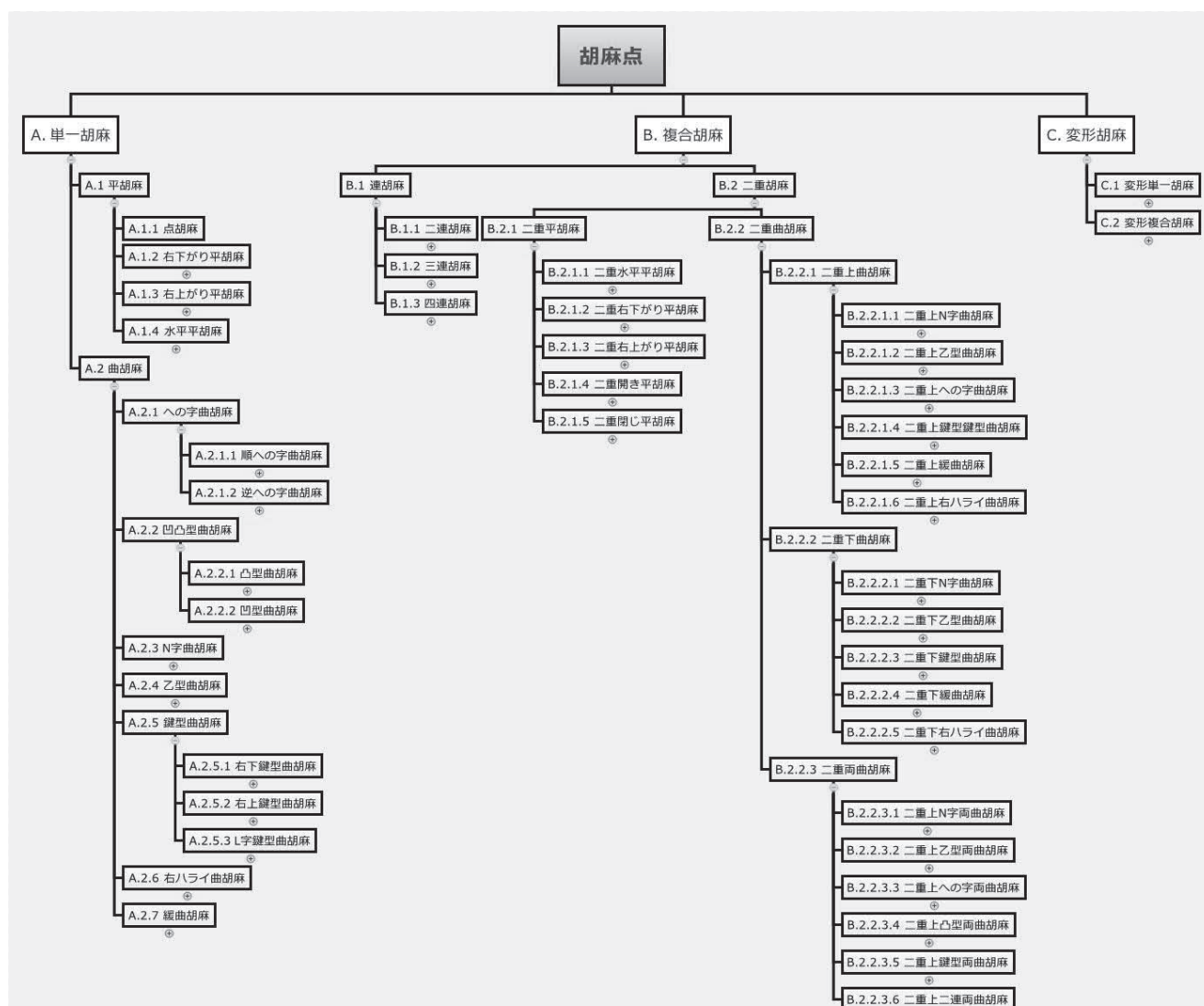


図2 長唄正本の胡麻の分類

検討した。図3～図11は、図2からさらに詳細に分類を試みたものである。それぞれの胡麻の名称はすべて著者による。分類は曖昧な点も含むが、その検討は5で行う。

3. 複合胡麻の分類

複数の線で形成される複合胡麻はさらに、単一胡麻が左右に連なった形状を持つ「連胡麻」と、単一胡麻が上下に並んだ形状を持つ「二重胡麻」に分類される。どちらも単一胡麻の組み合わせとして認識することができる⁴⁾。以下、それぞれの複合胡麻について、形状の特徴、名称、曲名を順に述べていく。小見出しのBは、図2中の複合胡麻に分類されることを示す。右矢印(→)は下位の階層への分岐を示す。もっとも下位の階層には下線を記した。なお、本稿では、それぞれの胡麻について1例のみを例示したが、参照した長唄正本に同種の胡麻は数多く見出すことができる。

B.1 複合胡麻 → 連胡麻

複合胡麻のうち、平胡麻や点胡麻が横に連なった、もしくは連記された形状を持つ胡麻を「連胡麻」とする⁵⁾。連胡麻の分類において着眼したのは、連なっている胡麻の数とその連なり方である。連胡麻は連なる胡麻の数により、「二連胡麻」、「三連胡麻」、「四連胡麻」の3つに分類される。

B.1.1 複合胡麻 → 連胡麻 → 二連胡麻

連胡麻のうち、平胡麻や曲胡麻2つが横に連記された、もしくは2つ連なった形状を持つ胡麻を「二連胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.1.1.1 複合胡麻 → 連胡麻 → 二連胡麻 → 二連点胡麻

点胡麻が2つ連記された形状を持つ胡麻を<二連点胡麻(にれん てんごま)>とする。この胡麻は《春宝東人形(はるだからあづまにんぎょう)》の正本で確認された。

B.1.1.2 複合胡麻 → 連胡麻 → 二連胡麻 → ハ型二連平胡麻

平胡麻が2つ連記され、片仮名の「ハ」に近い形状を持つ胡麻を<ハ型二連平胡麻(はがた にれん ひらごま)>とする。この胡麻は《花笠踊(はながさおどり)》の正本で確認された。

B.1.1.3 複合胡麻 → 連胡麻 → 二連胡麻 → 逆ハ型二連平胡麻

平胡麻が2つ連記され、片仮名の「ハ」が上下反転した形状を持つ胡麻を<逆ハ型二連平胡麻(ぎゃくはがたにれん ひらごま)>とする。この胡麻は《相生獅子(あいおいじし)》の正本で確認された。

B.1.1.4 複合胡麻 → 連胡麻 → 二連胡麻 → 二連曲胡麻

平胡麻が2つ連なった形状を持つ胡麻を<二連曲胡麻

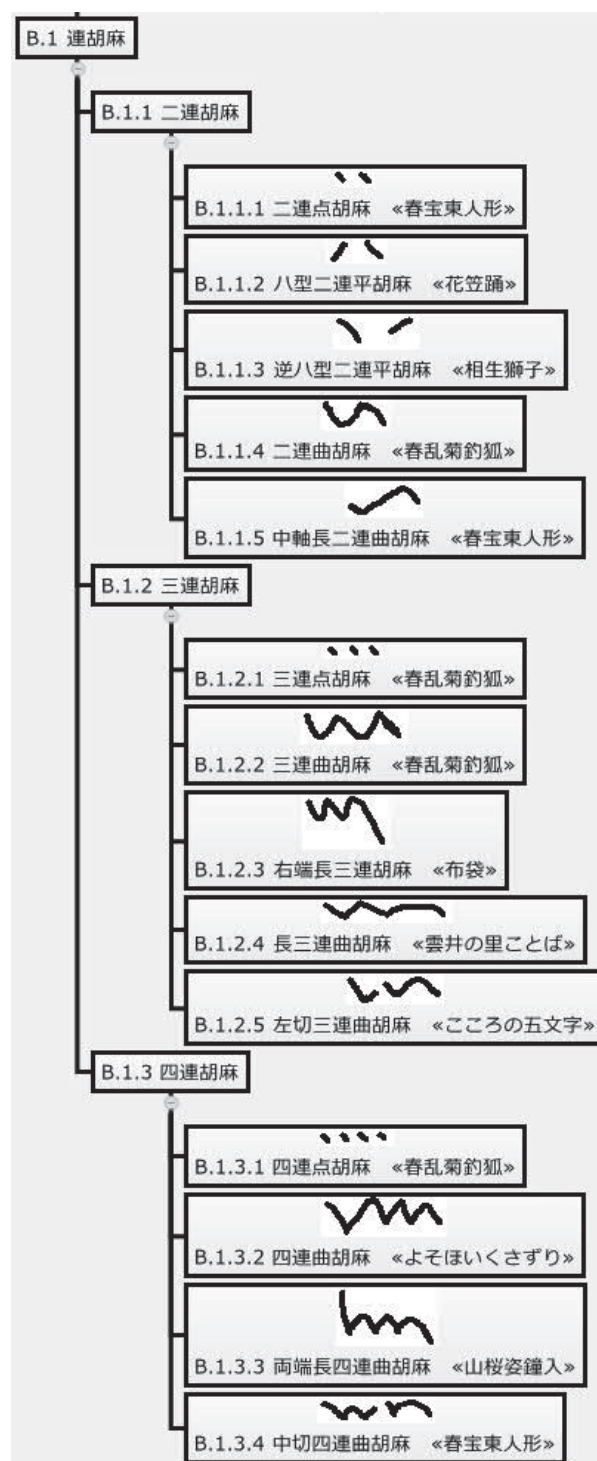


図3 連胡麻の分類

(にれん くせごま) >とする。この胡麻は《釣狐春乱菊 (つりぎつねはるのらんぎく)》の正本で確認された。

B.1.1.5 複合胡麻 → 連胡麻 → 二連胡麻 → 中軸長二連曲胡麻

平胡麻 2 つが連なり、その間の中軸にあたる部位が長い胡麻を<中軸長二連曲胡麻 (ちゅうじくちょう にれん くせごま) >とする⁶⁾。この胡麻は《春宝東人形 (はるだからあづまにんぎょう)》の正本で確認された。

B.1.2 複合胡麻 → 連胡麻 → 三連胡麻

連胡麻のうち、平胡麻や曲胡麻 3 つが横に連記された、もしくはそれらが 3 つ連なった形状を持つ胡麻を「三連胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.1.2.1 複合胡麻 → 連胡麻 → 三連胡麻 → 三連点胡麻

点胡麻が 3 つ連記された形状を持つ胡麻を<三連点胡麻 (さんれん てんごま) >とする。この胡麻は《釣狐春乱菊 (つりぎつねはるのらんぎく)》の正本で確認された。

B.1.2.2 複合胡麻 → 連胡麻 → 三連胡麻 → 三連曲胡麻

平胡麻が 3 つ連なった形状を持つ胡麻を<三連曲胡麻 (さんれん くせごま) >とする。この胡麻は《釣狐春乱菊 (つりぎつねはるのらんぎく)》の正本で確認された。

B.1.2.3 複合胡麻 → 連胡麻 → 三連胡麻 → 右端長三連曲胡麻

平胡麻が 3 つ連なり、その右端が比較的長い胡麻を<右端長三連曲胡麻 (みぎはじちょう さんれんくせごま) >とする。この胡麻は《布袋 (ほてい)》の正本で確認された。

B.1.2.4 複合胡麻 → 連胡麻 → 三連胡麻 → 長三連曲胡麻

平胡麻が 3 つ連なり、全体が比較的長い胡麻を<長三連曲胡麻 (ちょうさんれん くせごま) >とする。この胡麻は《雲井の里ことば (くもいのさとことば)》の正本で確認された。

B.1.2.5 複合胡麻 → 連胡麻 → 三連胡麻 → 左切三連曲胡麻

平胡麻が 3 つ連なり、1 つ目の胡麻と 2 つ目の胡麻の筆記が切れている胡麻を<左切三連曲胡麻 (させつ さんれん くせごま) >とする。この胡麻は《こころの五文字 (こころのいづもじ)》の正本で確認された。

B.1.3 複合胡麻 → 連胡麻 → 四連胡麻

連胡麻のうち、平胡麻や曲胡麻 4 つが横に連記された、もしくは 4 つ連なった形状を持つ胡麻を「四連胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.1.3.1 複合胡麻 → 連胡麻 → 四連胡麻 → 四連点胡麻

点胡麻が 4 つ連記された形状を持つ胡麻を<四連点胡麻 (よんれん てんごま) >とする。この胡麻は《釣狐春乱菊 (つりぎつねはるのらんぎく)》の正本で確認された。

B.1.3.2 複合胡麻 → 連胡麻 → 四連胡麻 → 四連曲胡麻

平胡麻が 4 つ連なった形状を持つ胡麻を<四連曲胡麻 (よんれん くせごま) >とする。この胡麻は《よそほいくさずり》の正本で確認された。

B.1.3.3 複合胡麻 → 連胡麻 → 四連胡麻 → 両端長四連曲胡麻

平胡麻が 4 つ連なり、その両端が比較的長い胡麻を<両端長四連曲胡麻 (りょうはじちょう よんれん くせごま) >とする。この胡麻は《山桜姿鐘入 (やまざくらすがたのかねいり)》の正本で確認された。

B.1.3.4 複合胡麻 → 連胡麻 → 四連胡麻 → 中切四連曲胡麻

平胡麻が 4 つ連なり、2 つ目の胡麻と 3 つ目の胡麻の筆記が切れている胡麻を<中切四連曲胡麻 (ちゅうせつ よんれん くせごま) >とする。この胡麻は《春宝東人形 (はるだからあづまにんぎょう)》の正本で確認された。

B.2 複合胡麻 → 二重胡麻

複合胡麻のうち、平胡麻や曲胡麻が上下に 2 つ並んだ形状を持つ胡麻を「二重胡麻」とする。二重胡麻はその形状により「二重平胡麻」と「二重曲胡麻」の 2 つに分類される。なお、二重胡麻の命名は、上の胡麻、下の胡麻それぞれの特徴を表す名称を上下の順につなげることにより行った。

B.2.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重平胡麻

二重胡麻のうち、上下 2 つの胡麻がともに平胡麻に分類される胡麻を「二重平胡麻」とする。二重平胡麻はその形状により「二重水平平胡麻」、「二重右下がり平胡麻」、「二重右上がり平胡麻」、「二重開き平胡麻」、「二重閉じ平胡麻」の 5 つに分類される。

B.2.1.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重平胡麻 → 二重水平平胡麻

二重平胡麻のうち、上下の胡麻がともにほぼ水平である胡麻を「二重水平平胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.2.1.1.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重平胡麻 → 二重水平平胡麻 → 水平短平・右寄水平短平・二重水平平胡麻

上の胡麻は、水平で比較的短い平胡麻であり、下の胡麻は、上の胡麻に対して右寄りであり、かつ水平で比較的短い平胡麻である。このような形状を持つ二重胡麻を<水平短平・右寄水平短平二重水平平胡麻（すいへい たんひら・みぎより すいへい たんひら・にじゅうすいへい ひらごま）>とする。この胡麻は《江戸鹿子、桜鐘入（えどがのこ、はるのかねいり）》の正本で確認された。

B.2.1.2 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重平胡麻 → 二重右下がり平胡麻

二重平胡麻のうち、上下の胡麻がともに右下がりである胡麻を「二重右下がり平胡麻」とする。以下、この階

層に属する胡麻について述べる。

B.2.1.2.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重平胡麻 → 二重右下がり平胡麻 → 右下長平・右寄右下短平・二重右下平胡麻

上の胡麻は、右下がりの比較的長い平胡麻であり、下の胡麻は、上の胡麻に対して右寄りであり、右下がりの比較的短い平胡麻である。このような形状を持つ二重胡麻を<右下長平・右寄右下短平・二重右下平胡麻（みぎさがり ちょうひら・みぎより みぎさがり たんひら・にじゅうみぎさがり ひらごま）>とする。この胡麻は《乱菊枕慈童（らんぎくまくらじどう）》の正本で確認された。

B.2.1.2.2 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重平胡麻 → 二重右下がり平胡麻 → 中央寄右下短平・右下長平・二重右下平胡麻

上の胡麻は、下の胡麻に対して中央寄りで、右下がりの比較的短い平胡麻であり、下の胡麻は、右下がりの比較的長い平胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<中央寄右下短平・右下長平・二重右下平胡麻（ちゅうおうより みぎさがり たんひら・みぎさがり ちょうひら・にじゅうみぎさがり ひらごま）>とする。この胡麻は《紅梅夜濃鶴（こうばいよるのつる）》の正本で確認された。

B.2.1.3 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重平胡麻 → 二重右上がり平胡麻

二重平胡麻のうち、上下の胡麻がともに右上がりである胡麻を「二重右上がり平胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.2.1.3.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重平胡麻 → 二重右上がり平胡麻 → 右上長平・中央寄右上短平・二重右上平胡麻

上の胡麻は、下の胡麻に対し左寄りで、右上がりの比較的短い平胡麻であり、下の胡麻は、右下がりの比較的長い平胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<左寄右上短平・右下長平・二重開平胡麻（ひだりより みぎあがり たんひら・みぎさがり ちょうひら・にじゅうかいひらごま）>とする。この胡麻は《相生獅子（あいおいじし）》の正本で確認された。

B.2.1.4 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重平胡麻 → 二重開き平胡麻

二重平胡麻のうち、上下の胡麻が、右向きに開く形状の胡麻を「二重開き平胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

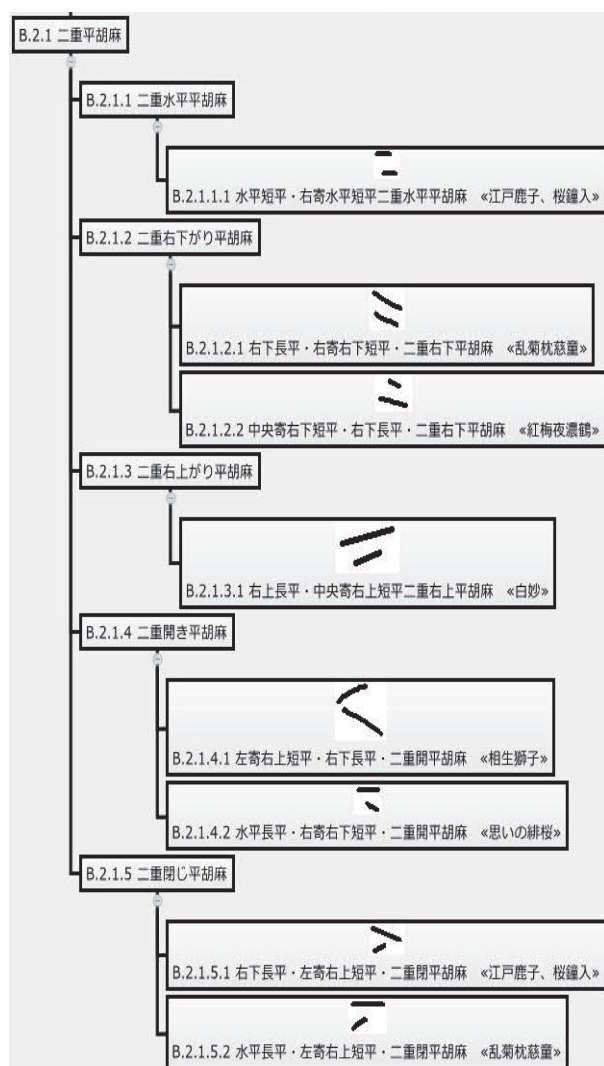


図4 二重下曲胡麻の分類

B.2.1.4.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重平胡麻
→ 二重開平胡麻 → 左寄右上短平・右下長平・二重開平胡麻

上の胡麻は、下の胡麻に対し左寄り、右上がりの比較的短い平胡麻であり、下の胡麻は、右下がりの比較的長い平胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<左寄右上短平・右下長平・二重開平胡麻（ひだりより みぎあがり たんひら・みぎさがり ちょうひら・にじゅうかい ひらごま）>とする。この胡麻は《相生獅子（あいおいじし）》の正本で確認された。

B.2.1.4.2 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重平胡麻
→ 二重開平胡麻 → 水平長平・右寄右下短平・二重開平胡麻

上の胡麻は、水平な比較的長い平胡麻であり、下の胡麻は、上の胡麻に対し右寄り、右下がりの比較的短い平胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<水平長平・右寄右下短平・二重開平胡麻（すいへい ちょうひら・みぎより みぎさがり たんひら・にじゅうかい ひらごま）>とする。この胡麻は《思いの緋桜（おもいのひざくら）》の正本で確認された。

B.2.1.5 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重平胡麻
→ 二重閉じ平胡麻

二重平胡麻のうち、上下の胡麻が、右向きに閉じる形状の胡麻を「二重閉じ平胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.2.1.5.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重平胡麻
→ 二重閉じ平胡麻 → 右下長平・左寄右上短平・二重閉平胡麻

上の胡麻は、右下がりの比較的長い平胡麻であり、下の胡麻は、上の胡麻に対し左寄り、右上がりの比較的短い平胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<右下長平・左寄右上短平・二重閉平胡麻（みぎさがり ちょうひら・ひだりより みぎあがり たんひら・にじゅうへい ひらごま）>とする。この胡麻は《江戸鹿子、桜鐘入（えどがのこ、はるのかねいり）》の正本で確認された。

B.2.1.5.2 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重平胡麻
→ 二重閉じ平胡麻 → 水平長平・左寄右上短平・二重閉平胡麻

上の胡麻は、水平な比較的長い平胡麻であり、下の胡麻は、上の胡麻に対して左寄り、右上がりの比較的短い平胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<水平長平・左寄右上短平・二重閉平胡麻（すいへい ちょうひら・

ひだりより みぎあがり たんひら・にじゅうへい ひらごま）>とする。この胡麻は《乱菊枕慈童（らんぎくまくらじどう）》の正本で確認された。

B.2.2 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻

二重曲胡麻のうち、上下どちらか（または両方）の胡麻が曲胡麻に分類される胡麻を「二重曲胡麻」とする。二重曲胡麻はその形状により「二重上曲胡麻」、「二重下曲胡麻」、「二重両曲胡麻」の3つに分類される。

B.2.2.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻
→ 二重上曲胡麻

二重曲胡麻のうち、上の胡麻が曲胡麻に分類される胡麻を「二重上曲胡麻」とする。二重上曲胡麻は、上の胡麻の形状により「二重上N字曲胡麻」、「二重上乙型曲胡麻」、「二重上への字曲胡麻」、「二重上鍵型曲胡麻」、「二重上緩曲胡麻」、「二重上右ハライ曲胡麻」の6つに分類される。

B.2.2.1.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻
→ 二重上曲胡麻 → 二重上N字曲胡麻

二重上曲胡麻のうち、上の胡麻がN字曲胡麻の形状を持つ胡麻を「二重上N字曲胡麻」とする⁷⁾。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

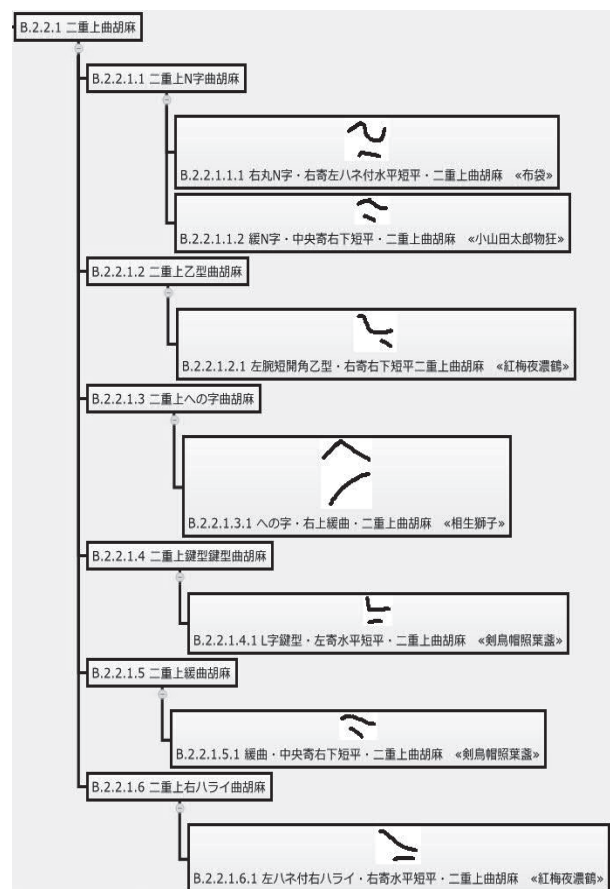


図5 二重上曲胡麻の分類

B.2.2.1.1.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重上曲胡麻 → 二重上N字曲胡麻 → 右丸N字・右寄左ハネ付水平短平・二重上曲胡麻

上の胡麻は、中軸と右腕が丸いカーブを描いてつながるN字曲胡麻であり、下の胡麻は、上の胡麻に対して右寄り、左端に少し飛び出た部位を持つ、水平な比較的短い胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<右丸N字・右寄左ハネ付水平短平・二重上曲胡麻（うまるえぬじ・みぎより ひだりはねつき すいへいたんひら・にじゅう じょうくせごま）>とする。この胡麻は《布袋（ほてい）》の正本で確認された。

B.2.2.1.1.2 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重上曲胡麻 → 二重上N字曲胡麻 → 緩N字・中央寄右下短平・二重上曲胡麻

上の胡麻は、比較的緩やかな形状を持つN字曲胡麻であり、下の胡麻は、上の胡麻に対して中央寄り、右下がりの比較的短い平胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<緩N字・中央寄右下短平・二重上曲胡麻（かんえぬじ・ちゅうおうより みぎさがり たんひら・にじゅう じょうくせごま）>とする。この胡麻は《小山田太郎物狂（おやまだたろうものぐるい）》の正本で確認された。

B.2.2.1.2 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重上曲胡麻 → 二重上乙型曲胡麻

二重上曲胡麻のうち、上の胡麻が乙型曲胡麻の形状を持つ胡麻を「二重上乙型曲胡麻」とする⁸⁾。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.2.2.1.2.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重上曲胡麻 → 二重上乙型曲胡麻 → 左腕短開角乙型・右寄右下短平・二重上曲胡麻

上の胡麻は、左腕が比較的短く、左腕・中軸・右腕それぞれのなす角が鈍角である乙型曲胡麻であり、下の胡麻は、上の胡麻に対して右寄り、右下がりの比較的短い平胡麻である⁸⁾。このような形状を持つ胡麻を<左腕短開角乙型・右寄右下短平・二重上曲胡麻（さわんたん かいかくおつがた・みぎより みぎさがり たんひら・にじゅう じょうくせごま）>とする。この胡麻は《紅梅夜濃鶴（こうばいよるのつる）》の正本で確認された。

B.2.2.1.3 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重上曲胡麻 → 二重上への字曲胡麻

二重上曲胡麻のうち、上の胡麻がへの字曲胡麻の形状を持つ胡麻を「二重上への字曲胡麻」とする⁹⁾。以下、

この階層に属する胡麻について述べる。

B.2.2.1.3.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重上曲胡麻 → 二重上への字曲胡麻 → への字・右上緩曲・二重上曲胡麻

上の胡麻は、バランスのよいへの字曲胡麻で、下の胡麻は、右上がりの緩曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<への字・右上緩曲・二重上への字曲胡麻（へのじ・みぎあがり かんくせ・にじゅう じょうくせごま）>とする。この胡麻は《相生獅子（あいおいじし）》の正本で確認された。

B.2.2.1.4 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重上曲胡麻 → 二重上鍵型曲胡麻

二重上曲胡麻のうち、上の胡麻が鍵型曲胡麻の形状を持つ胡麻を「二重上鍵型曲胡麻」とする¹⁰⁾。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.2.2.1.4.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重上曲胡麻 → 二重上L字鍵型曲胡麻 → L字鍵型・左寄水平短平・二重上曲胡麻

上の胡麻は、バランスの良いL字鍵型曲胡麻で、下の胡麻は、上の胡麻に対して左寄り、水平な比較的短い平胡麻である¹¹⁾。このような形状を持つ胡麻を<L字鍵型・左寄水平短平・二重上曲胡麻（えるじかぎがた・ひだりより すいへい たんひら・にじゅう じょうくせごま）>とする。この胡麻は《剣鳥帽照葉蓋（けんえぼし てるいはのさかづき）》の正本で確認された。

B.2.2.1.5 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重上曲胡麻 → 二重上緩曲胡麻

二重上曲胡麻のうち、上の胡麻が緩曲胡麻の形状を持つ胡麻を「二重上緩曲胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.2.2.1.5.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重上曲胡麻 → 二重上緩曲胡麻 → 緩曲・中央寄右下短平・二重上曲胡麻

上の胡麻は、緩やかなカーブを描く緩曲胡麻で、下の胡麻は、上の胡麻に対して中央寄り、右下がりの比較的短い平胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<緩曲・中央寄右下短平・二重上曲胡麻（かんくせ・ちゅうおうより みぎさがり たんひら・にじゅう じょうくせごま）>とする。この胡麻は《剣鳥帽照葉蓋（けんえぼし てるいはのさかづき）》の正本で確認された。

B.2.2.1.6 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重上曲胡麻 → 二重上右ハライ曲胡麻

二重上曲胡麻のうち、上の胡麻が右ハライ曲胡麻の形状を持つ胡麻を「二重上右ハライ曲胡麻」とする¹²⁾。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.2.2.1.6.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重上曲胡麻 → 二重上右ハライ曲胡麻 → 左ハネ付右ハライ・右寄水平短平・二重上曲胡麻

上の胡麻は、左端に少し飛び出た部位を持つ右ハライ曲胡麻であり、下の胡麻は、上の胡麻に対して右寄りで、水平な比較的短い平胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<左ハネ付右ハライ・右寄水平短平・二重上曲胡麻（ひだりはねつき みぎはらい・みぎより すいへい たんひら・にじゅう じょうくせごま）>とする。この胡麻は《紅梅夜濃鶴（こうばいよるのつる）》の正本で確認された。

B.2.2.2 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重下曲胡麻

二重曲胡麻のうち、下の胡麻が曲胡麻に分類される胡麻を「二重下曲胡麻」とする。二重下曲胡麻はその下の胡麻の形状により「二重下N字曲胡麻」、「二重下乙型曲胡麻」、「二重下鍵型曲胡麻」、「二重下緩曲胡麻」、「二重下右ハライ曲胡麻」の5つに分類される。

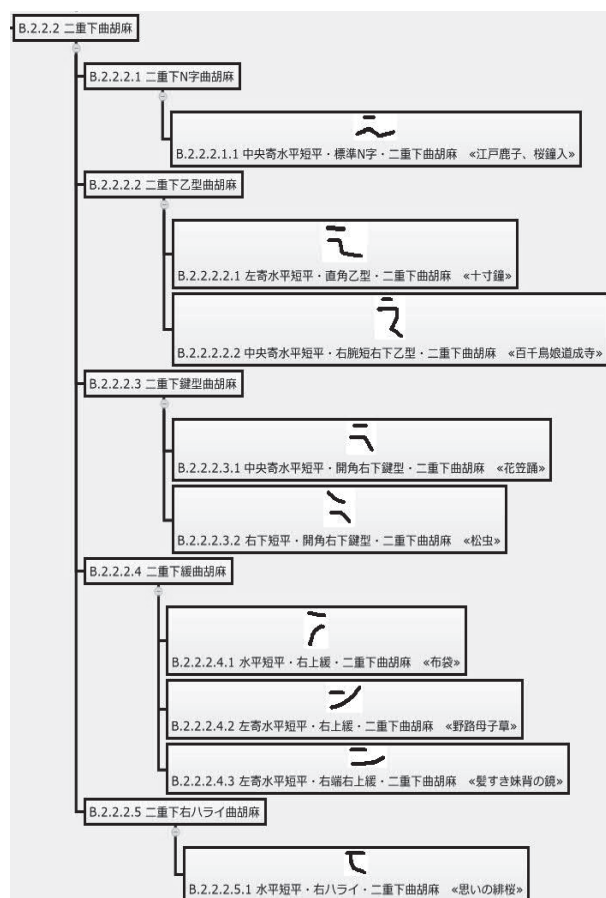


図6 二重下曲胡麻の分類

B.2.2.2.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重下曲胡麻 → 二重下N字曲胡麻

二重下曲胡麻のうち、下の胡麻がN字曲胡麻の形状を持つ胡麻を「二重下N字曲胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.2.2.2.1.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重下曲胡麻 → 二重下N字曲胡麻 → 中央寄水平短平・標準N字・二重下曲胡麻

上の胡麻は、下の胡麻に対して中央寄りで、水平な比較的短い平胡麻であり、下の胡麻は、バランスの良い標準N字曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<中央寄水平短平・標準N字・二重下曲胡麻（ちゅうおうより すいへい たんひら・ひょうじゅん えぬじ・にじゅう げくせごま）>とする。この胡麻は《江戸鹿子・桜鐘入（えどがのこ、はるのかねいり）》の正本で確認された。

B.2.2.2.2 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重下曲胡麻 → 二重下乙型曲胡麻

二重下曲胡麻のうち、下の胡麻が乙型曲胡麻の形状を持つ胡麻を「二重下乙型曲胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.2.2.2.2.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重下曲胡麻 → 二重下乙型曲胡麻 → 左寄水平短平・直角乙型・二重下曲胡麻

上の胡麻は、下の胡麻に対して左寄りで、水平な比較的短い平胡麻であり、下の胡麻は、左腕・中軸・右腕それぞれのなす角が概ね直角である乙型曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<左寄水平短平・直角乙型・二重下曲胡麻（ひだりより すいへい たんひら・ちよっ かく おつがた・にじゅう げくせごま）>とする。この胡麻は《十寸鏡（ますかがみ）》の正本で確認された。

B.2.2.2.2.2 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重下曲胡麻 → 二重下乙型曲胡麻 → 中央寄水平短平・右腕短右下乙型・二重下曲胡麻

上の胡麻は、下の胡麻に対して中央寄りで、水平な比較的短い平胡麻であり、下の胡麻は、比較的右腕が短く右下がりの、乙型曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<中央寄水平短平・右腕短右下乙型・二重下曲胡麻（ちゅうおうより すいへい たんひら・うわんたん みぎさがり おつがた・にじゅう げくせごま）>とする。この胡麻は《百千鳥娘道成寺（ももちどりむすめどうじょうじ）》の正本で確認された。

B.2.2.2.3 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重下曲胡麻 → 二重下鍵型曲胡麻

二重下曲胡麻のうち、下の胡麻が鍵型曲胡麻の形状を持つ胡麻を「二重下鍵型曲胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.2.2.2.3.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重下曲胡麻 → 二重下鍵型曲胡麻 → 中央寄水平短平・開角右下鍵型・二重下曲胡麻

上の胡麻は、下の胡麻に対して中央寄りで、水平な比較的短い平胡麻であり、下の胡麻は、左腕と右腕のなす角が鈍角である、右腕が下向きの鍵型曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<中央寄水平短平・開角右下鍵型・二重下曲胡麻（ちゅうおうより すいへい たんひら・かいかく みぎさがりかぎがた・にじゅう げくせごま）>とする。この胡麻は《花笠踊（はながさおどり）》の正本で確認された。

B.2.2.2.3.2 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重下曲胡麻 → 二重下鍵型曲胡麻 → 右下短平・開角右下鍵型・二重下曲胡麻

上の胡麻は、右下がりの比較的短い平胡麻であり、下の胡麻は、左腕と右腕のなす角が鈍角であり、右腕が下向きの鍵型曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<右下短平・開角右下鍵型・二重下曲胡麻（みぎさがり たんひら・かいかく みぎさがりかぎがた・にじゅう げくせごま）>とする。この胡麻は《松虫（まつむし）》の正本で確認された。

B.2.2.2.4 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重下曲胡麻 → 二重下緩曲胡麻

二重下曲胡麻のうち、下の胡麻が緩曲胡麻の形状を持つ胡麻を「二重下緩曲胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.2.2.2.4.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重下曲胡麻 → 二重下緩曲胡麻 → 水平短平・右上緩・二重下曲胡麻

上の胡麻は、水平な比較的短い平胡麻であり、下の胡麻は、右上がりの緩曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<水平短平・右上緩・二重下曲胡麻（すいへい たんひら・みぎあがりかん・にじゅう げくせごま）>とする。この胡麻は《布袋（ぼてい）》の正本で確認された。

B.2.2.2.4.2 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重下曲胡麻 → 二重下緩曲胡麻 → 左寄水平短平・右上緩・二重下曲胡麻

上の胡麻は、下の胡麻に対して左寄りで、水平な比較的短い平胡麻であり、下の胡麻は、右上がりの緩曲胡麻

である。このような形状を持つ胡麻を<左寄水平短平・右上緩・二重下曲胡麻（ひだりより すいへい たんひら・みぎあがり かん・にじゅう げくせごま）>とする。この胡麻は《野路母子草（のじのははこぐさ）》の正本で確認された。

B.2.2.2.4.3 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重下曲胡麻 → 二重下緩曲胡麻 → 左寄水平短平・右端右上緩・二重下曲胡麻

上の胡麻は、下の胡麻に対して左寄りで、水平な比較的短い平胡麻であり、下の胡麻は、右端が右上がりの緩曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<左寄水平短平・右端右上緩・二重下曲胡麻（ひだりより すいへい たんひら・みぎはじみぎあがり かん・にじゅう げくせごま）>とする。この胡麻は《髪すき妹背の鏡（かみすきいもせのかがみ）》の正本で確認された。

B.2.2.2.5 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重下曲胡麻 → 二重下右ハライ曲胡麻

二重下曲胡麻のうち、下の胡麻が右ハライ曲胡麻の形状を持つ胡麻を「二重下右ハライ曲胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.2.2.2.5.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重下曲胡麻 → 二重下右ハライ曲胡麻 → 水平短平・右ハライ・二重下曲胡麻

上の胡麻は、水平な比較的短い平胡麻であり、下の胡麻は、右に払ったような形状を持つ右ハライ曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<水平短平・右ハライ・二重下曲胡麻（すいへい たんひら・みぎはらい・にじゅう げくせごま）>とする。この胡麻は《思いの緋桜（おもいのひざくら）》の正本で確認された。

B.2.2.3 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻

二重曲胡麻のうち、上下の胡麻がともに曲胡麻に分類される胡麻を「二重両曲胡麻」とする。二重両曲胡麻は上の胡麻の形状により「二重上 N 字両曲胡麻」、「二重上乙型両曲胡麻」、「二重上への字両曲胡麻」、「二重上凸型両曲胡麻」、「二重上鍵型両曲胡麻」、「二重上二連両曲胡麻」の 6 つに分類される。

B.2.2.3.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上 N 字両曲胡麻

二重両曲胡麻のうち、上の胡麻が N 字曲胡麻の形状を持つ胡麻を「二重上 N 字両曲胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

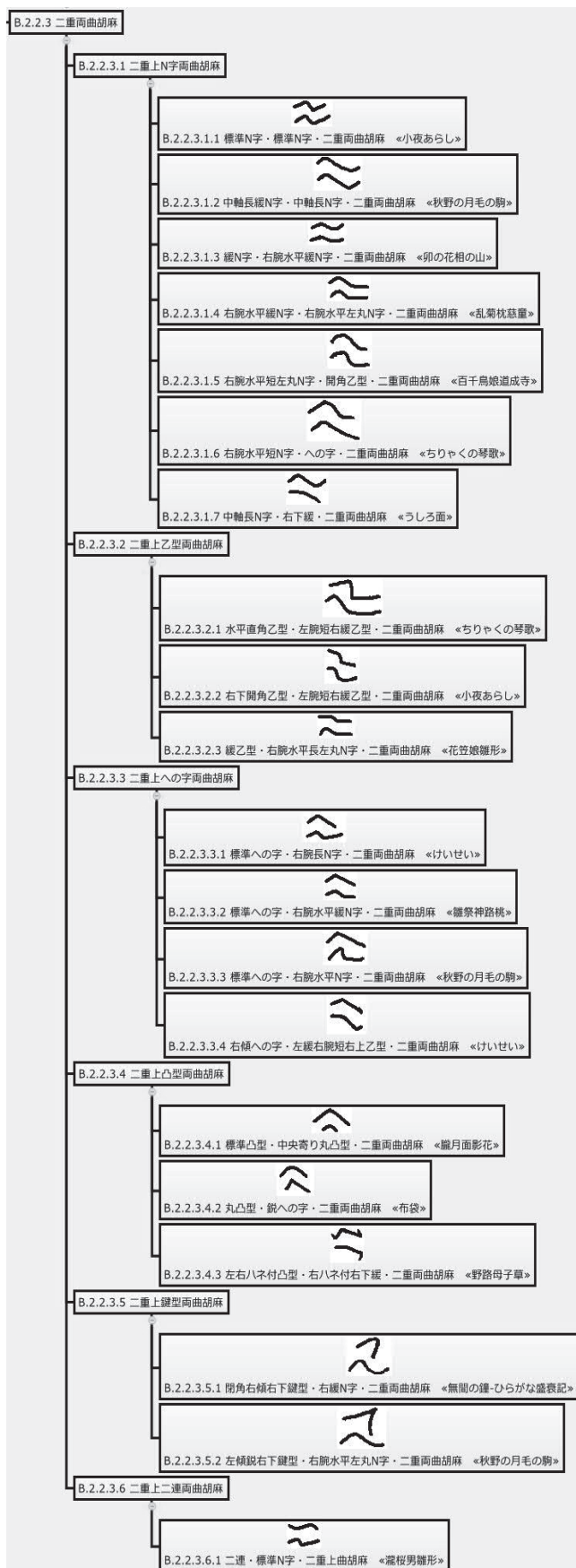


図7 二重両曲胡麻の分類

B.2.2.3.1.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上N字両曲胡麻 → 標準N字・標準N字・二重両曲胡麻

上の胡麻, 下の胡麻ともに, バランスの良いN字曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<標準N字・標準N字・二重両曲胡麻 (ひょうじゅん えぬじ・ひょうじゅん えぬじ・にじゅう りょうくせごま)>とする。この胡麻は《小夜あらし (さよあらし)》の正本で確認された。

B.2.2.3.1.2 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上N字両曲胡麻 → 中軸長緩N字・中軸長N字・二重両曲胡麻

上の胡麻は, 比較的中軸が長く, 左腕・中軸・右腕それぞれが緩やかなカーブを描いてつながる緩N字曲胡麻であり, 下の胡麻は, 比較的中軸が長いN字曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<中軸長緩N字・中軸長N字・二重両曲胡麻 (ちゅうじくちょう かんえぬじ・ちゅうじくちょう えぬじ・にじゅう りょうくせごま)>とする。この胡麻は《秋野の月毛の駒 (あきののつきけのこま)》の正本で確認された。

B.2.2.3.1.3 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上N字両曲胡麻 → 緩N字・右腕水平緩N字・二重両曲胡麻

上の胡麻は, 左腕・中軸・右腕それぞれが緩やかなカーブを描いてつながる緩N字曲胡麻であり, 下の胡麻は, 右腕が水平で, 左腕・中軸・右腕それぞれが緩やかなカーブを描いてつながる緩N字曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<緩N字・右腕水平緩N字・二重両曲胡麻 (かんえぬじ・うわんすいへい かんえぬじ・にじゅう りょうくせごま)>とする。この胡麻は《卯の花相の山 (うのはなあいのみやま)》の正本で確認された。

B.2.2.3.1.4 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上N字両曲胡麻 → 右腕水平緩N字・右腕水平左丸N字・二重両曲胡麻

上の胡麻は, 右腕が水平で, 左腕から右腕まで緩やかなカーブを描いている緩N字曲胡麻であり, 下の胡麻は, 右腕が水平で, 左腕から中軸にかけて丸く円を描いているN字曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<右腕水平緩N字・右腕水平左丸N字・二重両曲胡麻 (うわんすいへい かんえぬじ・うわんすいへい さまる えぬじ・にじゅう りょうくせごま)>とする。この胡麻は《乱菊枕慈童 (らんぎくまくらじどう)》の正本で確認された。

B.2.2.3.1.5 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上 N 字両曲胡麻 → 右腕水平短左丸 N 字・開角乙型・二重両曲胡麻

上の胡麻は、右腕が水平で比較的短く、左腕から中軸にかけて丸く円を描く N 字曲胡麻であり、下の胡麻は、左腕・中軸・右腕それぞれのなす角が鈍角である乙型曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<右腕水平短左丸 N 字・開角乙型・二重両曲胡麻（うわんすいへいたん さまる えぬじ・かいかくおつがた・にじゅう りょうくせごま）>とする。この胡麻は《百千鳥娘道成寺（もちどりむすめどうじょうじ）》の正本で確認された。

B.2.2.3.1.6 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上 N 字両曲胡麻 → 右腕水平短 N 字・への字・二重両曲胡麻

上の胡麻は、右腕が水平で比較的短い N 字曲胡麻で、下の胡麻は、バランスの良いへの字曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<右腕水平短 N 字・への字・二重両曲胡麻（うわんすいへいたん えぬじ・へのじ・にじゅう りょうくせごま）>とする。この胡麻は《ちりやくの琴歌（ちりやくのことうた）》の正本で確認された。

B.2.2.3.1.7 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上 N 字両曲胡麻 → 中軸長 N 字・右下緩・二重両曲胡麻

上の胡麻は、中軸が比較的長い N 字曲胡麻で、下の胡麻は、右下がりの緩曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<中軸長 N 字・右下緩・二重両曲胡麻（ちゅうじくちょう えぬじ・みぎさがり かん・にじゅう りょうくせごま）>とする。この胡麻は《うしろ面（うしろめん）》の正本で確認された。

B.2.2.3.2 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上乙型両曲胡麻

二重両曲胡麻のうち、上の胡麻が乙型曲胡麻の形状を持つ胡麻を「二重上乙型両曲胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.2.2.3.2.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上乙型両曲胡麻 → 水平直角乙型・左腕短右緩乙型・二重両曲胡麻

上の胡麻は、左腕と右腕がほぼ水平で、左腕・中軸・右腕それぞれのなす角が概ね直角な乙型曲胡麻であり、下の胡麻は、左腕が比較的短く、中軸から右腕にかけて緩やかなカーブを描いている乙型曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<水平直角乙型・左腕短右緩乙

型・二重両曲胡麻（すいへい ちよっかく おつがた・さわんたん うかん おつがた・にじゅう りょうくせごま）>とする。この胡麻は《ちりやくの琴歌（ちりやくのことうた）》の正本で確認された。

B.2.2.3.2.2 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上乙型両曲胡麻 → 右下開角乙型・左腕短右緩乙型・二重両曲胡麻

上の胡麻は、全体的に右下がりであり、左腕・中軸・右腕それぞれのなす角が鈍角の乙型曲胡麻であり、下の胡麻は、左腕が比較的短く、中軸から右腕にかけて緩やかなカーブを描いている乙型曲胡麻である。このような形状をもつ胡麻を<右下開角乙型・左腕短右緩乙型・二重両曲胡麻（みぎさがり かいかく おつがた・さわんたん うかん おつがた・にじゅう りょうくせごま）>とする。この胡麻は《小夜あらし（さよあらし）》の正本で確認された。

B.2.2.3.2.3 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上乙型両曲胡麻 → 緩乙型・右腕水平長左丸 N 字・二重両曲胡麻

上の胡麻は、左腕から右腕にかけて緩やかなつながりを持つ乙型曲胡麻であり、下の胡麻は、右腕が水平で比較的長く、左腕から中軸にかけて丸く円を描いている N 字曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<緩乙型・右腕水平長左丸 N 字・二重両曲胡麻（かん おつがた・うわんすいへいちょう さまる えぬじ・にじゅう りょうくせごま）>とする。この胡麻は《花笠娘雛形（はながさむすめひながた）》の正本で確認された。

B.2.2.3.3 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上への字両曲胡麻

二重両曲胡麻のうち、上の胡麻がへの字曲胡麻の形状を持つ胡麻を「二重上への字両曲胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.2.2.3.3.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上への字両曲胡麻 → 標準への字・右腕長 N 字・二重両曲胡麻

上の胡麻は、バランスの良いへの字曲胡麻であり、下の胡麻は、右腕が比較的長い N 字曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<標準への字・右腕長 N 字・二重両曲胡麻（ひょうじゅんへのじ・うわんちょう えぬじ・にじゅう りょうくせごま）>とする。この胡麻は《けいせい》の正本で確認された。

B.2.2.3.3.2 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡

麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上への字両曲胡麻 →
標準への字・右腕水平緩N字・二重両曲胡麻

上の胡麻は、バランスの良いへの字曲胡麻であり、下の胡麻は、右腕が水平で、左腕から右腕まで緩やかにつながるN字曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<標準への字・右腕水平緩N字・二重両曲胡麻（ひょうじゅんへのじ・うわんすいへい かんえぬじ・にじゅうりょうくせごま）>とする。この胡麻は《雛祭神路桃（ひなまつりかみじのもも）》の正本で確認された。

B.2.2.3.3.3 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上への字両曲胡麻 →
標準への字・右腕水平N字・二重両曲胡麻

上の胡麻はバランスの良いへの字曲胡麻であり、下の胡麻は、右腕が水平なN字曲胡麻である。このような形状をもつ胡麻を<標準への字・右腕水平N字・二重両曲胡麻（ひょうじゅんへのじ・うわんすいへい えぬじ・にじゅうりょうくせごま）>とする。この胡麻は《秋野の月毛の駒（あきののつきけのこま）》の正本で確認された。

B.2.2.3.3.4 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上への字両曲胡麻 →
右傾への字・左緩右腕短右上乙型・二重両曲胡麻

上の胡麻は、やや右に傾いたへの字曲胡麻であり、下の胡麻は、左腕から中軸にかけて緩やかなカーブを描き、右腕が右上がりです比較的小短乙型曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<右傾への字・左緩右腕短右上乙型・二重両曲胡麻（うけいへのじ・さかん うわんみぎあがりたん おつがた・にじゅうりょうくせごま）>とする。この胡麻は《けいせい》の正本で確認された。

B.2.2.3.4 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上凸型両曲胡麻

二重両曲胡麻のうち、上の胡麻が凸型曲胡麻の形状を持つ胡麻を「二重上凸型両曲胡麻」とする¹³⁾。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.2.2.3.4.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上凸型両曲胡麻 →
標準凸型・中央寄り丸凸型・二重両曲胡麻

上の胡麻は、バランスの良い標準凸型曲胡麻であり、下の胡麻は、上の胡麻に対して中央寄りで、左腕から右腕にかけて丸くカーブを描く部位を持つ凸型曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<標準凸型・中央寄り丸凸型・二重両曲胡麻（ひょうじゅん とつがた・ちゅう

おうより まるとつがた・にじゅうりょうくせごま）>とする。この胡麻は《朧月面影花（おぼろづきおもかげのはな）》の正本で確認された。

B.2.2.3.4.2 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上凸型両曲胡麻 →
丸凸型・鋭への字・二重両曲胡麻

上の胡麻は、左腕から右腕にかけて丸くカーブを描く丸凸型曲胡麻であり、下の胡麻は、左腕から右腕にかけて鋭く尖った部位を持つ、鋭への字曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<丸凸型・鋭への字・二重両曲胡麻（まる とつがた・えい へのじ・にじゅうりょうくせごま）>とする。この胡麻は《布袋（ほてい）》の正本で確認された。

B.2.2.3.4.3 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上凸型両曲胡麻 →
左右ハネ付凸型・右ハネ付右下緩・二重両曲胡麻

上の胡麻は、左右両端に少し飛び出た部位を持つ凸型曲胡麻であり、下の胡麻は、右端に少し飛び出た部位を持つ、右下がりの緩曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<左右ハネ付凸型・右ハネ付右下緩・二重両曲胡麻（さゆうはねつき とつがた・みぎはねつき みぎさがりかん・にじゅうりょうくせごま）>とする。この胡麻は《野路母子草（のじのははこぐさ）》の正本で確認された。

B.2.2.3.5 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上鍵型両曲胡麻

二重両曲胡麻のうち、上の胡麻が鍵型曲胡麻の形状を持つ胡麻を「二重上鍵型両曲胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.2.2.3.5.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上鍵型両曲胡麻 →
閉角右傾右下鍵型・右緩N字・二重両曲胡麻

上の胡麻は、左腕と右腕のなす角が鋭角であり、全体が右に傾いた、右腕が下向きの鍵型曲胡麻であり、下の胡麻は、中軸から右腕にかけて緩やかなカーブを描く、N字曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<閉角右傾右下鍵型・右緩N字・二重両曲胡麻（へいかく うけい みぎさがり かぎがた・うかん えぬじ・にじゅうりょうくせごま）>とする。この胡麻は《無間の鐘一ひらがな盛衰記（むけんのかね一ひらがなせいすいき）》の正本で確認された。

B.2.2.3.5.2 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡

麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上鍵型両曲胡麻 → 左傾鋭右下鍵型・右腕水平左丸N字・二重両曲胡麻

上の胡麻は、全体が左に傾いた、左腕から右腕にかけて鋭く尖った部位を持つ、右腕が下向きの右下鍵型曲胡麻であり、下の胡麻は、右腕が水平で、左腕から中軸にかけて丸いカーブを描くN字曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<左傾鋭右下鍵型・右腕水平左丸N字・二重両曲胡麻（さけい えい みぎさがりががた・うわんすいへい さまる えぬじ・にじゅう りょうくせごま）>とする。この胡麻は《秋野の月毛の駒（あきののつきけのこま）》の正本で確認された。

B.2.2.3.6 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上二連両曲胡麻

二重両曲胡麻のうち、上の胡麻が二連曲胡麻の形状を持つ胡麻を「二重上二連両曲胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

B.2.2.3.6.1 複合胡麻 → 二重胡麻 → 二重曲胡麻 → 二重両曲胡麻 → 二重上二連両曲胡麻 → 二連・標準N字・二重上曲胡麻

上の胡麻は二連曲胡麻であり、下の胡麻はバランスの良い標準N字曲胡麻である。このような形状を持つ胡麻を<二連・標準N字・二重上曲胡麻（にれん・ひょうじゅん えぬじ・にじゅう じょうくせごま）>とする。この胡麻は《瀧桜男雛形（たきざくらおとこひながた）》の正本で確認された。

4. 変形胡麻の分類

長唄正本から抽出された胡麻の中には、ここまでの分類にあてはまらない、独自の形状を持つ胡麻も存在する。そのような胡麻を「変形胡麻」に分類する。変形胡麻はその形状により「変形単一胡麻」、「変形複合胡麻」の2つに分類される。変形胡麻の多くは、単一胡麻の組み合わせとして認識できる形状を持っているが、他の胡麻と類似していないため、形状にもとづく階層の分岐と名称づけは難しい。以下、それぞれの変形胡麻について、分類と曲名を順に述べていく。小見出しのCは、図2中の変形胡麻に分類されることを示す。

C.1 単一胡麻 → 変形単一胡麻

変形胡麻のうち、1本の線で形成される胡麻を「変形単一胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

C.1.1 単一胡麻 → 変形単一胡麻 → 変形単一胡麻1

《ちりやくの琴歌（ちりやくのことうた）》の正本で確認された。

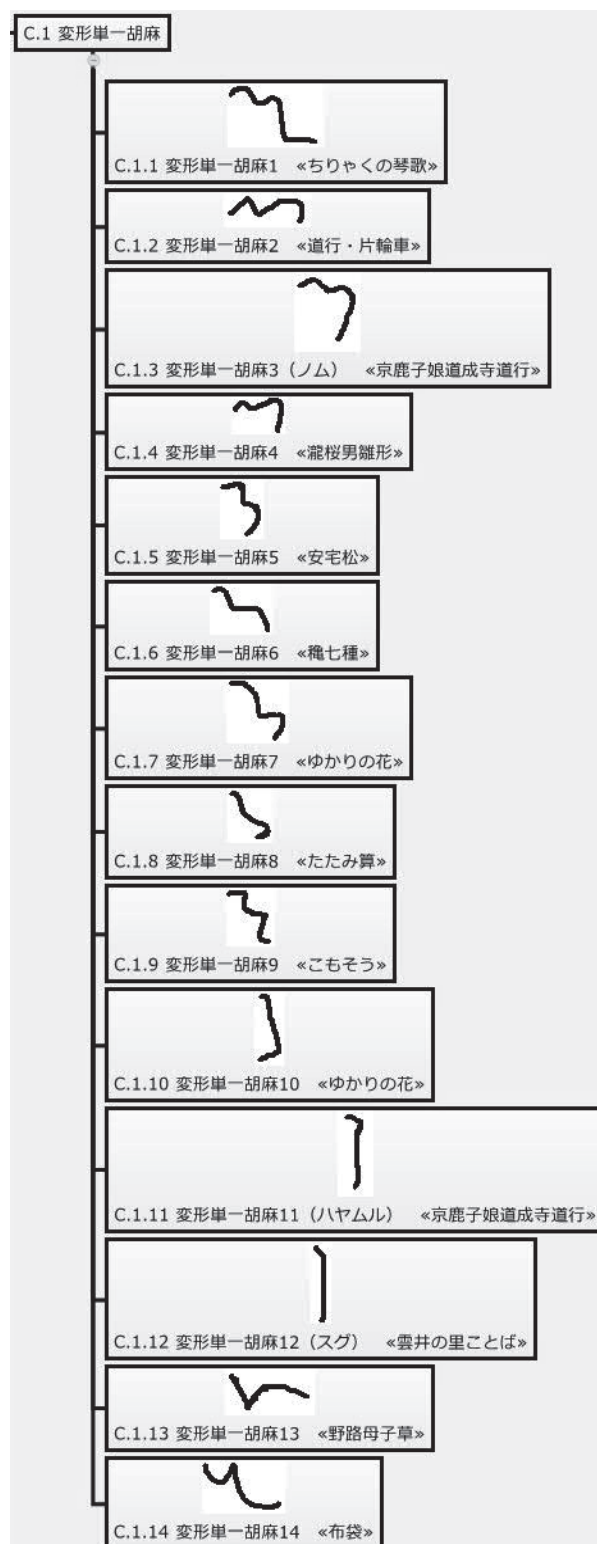


図8 変形単一胡麻の分類

C. 1. 2 単一胡麻 → 変形単一胡麻 → 変形単一胡麻 2

《道行・片輪車（みちゆき・かたわぐるま）》の正本で確認された。

C. 1. 3 単一胡麻 → 変形単一胡麻 → 変形単一胡麻 3

《京鹿子娘道成寺道行（きょうがのこむすめどうじょうじみちゆき）》の正本で確認された。「浄瑠璃秘曲抄」の中で「ノム」の名称が与えられている胡麻と類似した形状を持つ¹⁴⁾。

C. 1. 4 単一胡麻 → 変形単一胡麻 → 変形単一胡麻 4

《瀧桜男雛形（たきざくらおとこひながた）》の正本で確認された。

C. 1. 5 単一胡麻 → 変形単一胡麻 → 変形単一胡麻 5

《安宅松（あたかのまつ）》の正本で確認された。

C. 1. 6 単一胡麻 → 変形単一胡麻 → 変形単一胡麻 6

《穂七種（あきのななくさ）》の正本で確認された。

C. 1. 7 単一胡麻 → 変形単一胡麻 → 変形単一胡麻 7

《ゆかりの花（ゆかりのはな）》の正本で確認された。

C. 1. 8 単一胡麻 → 変形単一胡麻 → 変形単一胡麻 8

《たたみ算（たたみ算）》の正本で確認された。

C. 1. 9 単一胡麻 → 変形単一胡麻 → 変形単一胡麻 9

《こもそう》の正本で確認された。

C. 1. 10 単一胡麻 → 変形単一胡麻 → 変形単一胡麻 10

《ゆかりの花（ゆかりのはな）》の正本で確認された。

C. 1. 11 単一胡麻 → 変形単一胡麻 → 変形単一胡麻 11

《京鹿子娘道成寺道行（きょうがのこむすめどうじょうじみちゆき）》の正本で確認された。「浄瑠璃秘曲抄」の中で「ハヤムル」の名称が与えられている胡麻と類似した形状を持つ。

C. 1. 12 単一胡麻 → 変形単一胡麻 → 変形単一胡麻 12

《雲井の里ことば（くもいのさとことば）》の正本で確認された。「東都一流江戸節根元集」の中で「スグ」の

名称が与えられている胡麻と類似した形状を持つ¹⁵⁾。

C. 1. 13 単一胡麻 → 変形単一胡麻 → 変形単一胡麻 13

《野路母子草（のじのははこぐさ）》の正本で確認された。

C. 1. 14 単一胡麻 → 変形単一胡麻 → 変形単一胡麻 14

《布袋（ほてい）》の正本で確認された。

C. 2 変形胡麻 → 変形複合胡麻

変形胡麻のうち、2 本以上の線で形成される胡麻を「変形複合胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

C. 2. 1 変形胡麻 → 変形複合胡麻 → 変形複合胡麻 1

《白妙（しろたえ）》の正本で確認された。「東都一流江戸節根元集」の中で「ウクフリ」の名称が与えられている胡麻と類似した形状を持つ。

C. 2. 2 変形胡麻 → 変形複合胡麻 → 変形複合胡麻 2

《無間の鐘—ひらがな盛衰記（むけんのかね—ひらがなせいすいき）》の正本で確認された。

C. 2. 3 変形胡麻 → 変形複合胡麻 → 変形複合胡麻 3

《白妙（しろたえ）》の正本で確認された。

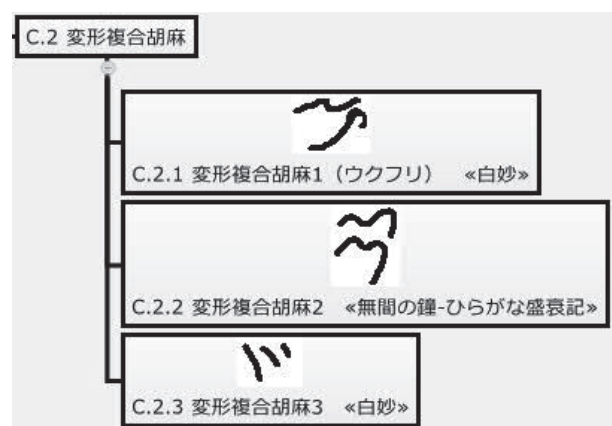


図9 変形胡麻の分類

5. 胡麻の分類の検討

胡麻が未解説である以上、形状の微妙な差異であっても、異なる意味を持つ可能性があることを考慮しなければならない。この前提に立って、複合胡麻及び変形胡麻においても、分類はできる限り詳細に行なった。しかし、分類を進めていくうちに、複数の解釈が可能であり、分類に曖昧さが生じる胡麻の例も見出された¹⁶⁾。たとえば、前稿の右腕平行右ハネ付 N 字曲胡麻 A. 2. 3. 16, 右ハネ付水平直角乙型曲胡麻 A. 2. 4. 21 は、胡麻の左側の形状に注目すれば、曲胡麻の下位の階層の胡麻として分類されるが、全体の形状に注目すれば、本稿で検討した変形胡麻 C. 1. 1, C. 1. 2, C. 1. 3, C. 1. 4, C. 1. 5, C. 1. 6, C. 1. 7, C. 1. 8, C. 1. 9 の 9 種にもよく似ている¹⁷⁾。したがって、これら 11 種の胡麻をすべて変形胡麻として分類する解釈も可能である。しかし、前稿及び本稿では、それらのうち 2 種の胡麻を、それぞれ N 字曲胡麻、乙型曲胡麻に分類した。分類の一貫性はやや失われるが、類似する形状の胡麻を分類するための規準を、こうして少しでも増やしておけば、今後における胡麻の検討にとって、より現実的な判断材料を提供することになる。この例のように、複数の解釈が可能である胡麻については、研究の進捗に伴って胡麻の分類規準が増えていくことを想定したうえで、解釈の特定を行なった。

6. おわりに

本稿では、長唄正本にみる複合胡麻 58 種及び変形胡麻 17 種の分類を示した。呈示した分類は、他の種目の譜本にみる直線及び曲線記号を分類する指標にもなりう

ると考える。なお、本稿で参照した長唄正本は、現存する多数の長唄正本の一部でしかない。検討した胡麻について、類似する記号を、まだ参照していない長唄正本、及び他の種目の譜本に探ることにより、本稿の分類を修正していくことが今後の課題である。

注

- 1) 矢向正人・新崎達貴「長唄正本にみる胡麻点の分類：単一胡麻の分類」『芸術工学研究』17, 2012, 153-167.
- 2) 矢向正人「標準データ記述言語を用いた未解説楽譜の認識と記述」『音楽学』52(2), 2007, 122-138.
- 3) 矢向・新崎 2012, 155 以下。
- 4) このことから、検討する種目を増やしたとき、複合胡麻の数と種類は、単一胡麻のそれよりもずっと増えることが推測される。
- 5) 平胡麻, 点胡麻については、矢向・新崎 2012, 155 の A. 1 及び A. 1. 1 で検討した。
- 6) 前稿では、曲胡麻を、左腕, 中軸, 右腕の 3 つの部位に分割して認識した。矢向・新崎 2012, 155。
- 7) N 字曲胡麻は、矢向・新崎 2012, 159 の A. 2. 3 で検討した。
- 8) 乙型曲胡麻は、矢向・新崎 2012, 160 の A. 2. 4 で検討した。
- 9) への字曲胡麻は、矢向・新崎 2012, 156 の A. 2. 1 で検討した。
- 10) 鍵型曲胡麻は、矢向・新崎 2012, 163 の A. 2. 5 で検討した。
- 11) L 字鍵型曲胡麻は、矢向・新崎 2012, 165 の A. 2. 5. 3 で検討した。
- 12) 右ハライ曲胡麻は、矢向・新崎 2012, 166 の A. 2. 6 で検討した。
- 13) 凸型曲胡麻は、矢向・新崎 2012, 157 の A. 2. 2 で検討した。
- 14) 「浄瑠璃秘曲抄」『日本庶民文化史料集成』7, 三一書房, 1975, 190
- 15) 有銭堂清霞「東都一流江戸節根本集」『未完随筆百種』5, 中央公論社, 1977, 317
- 16) 前稿と同様に、この曖昧さにより分類が成り立たなくなる限界まで、分類の階層を下位に分岐させた。矢向・新崎 2012, 167。
- 17) 前稿の A. 2. 3. 16 で、右腕平行右ハネ付 N 字曲胡麻を検討した。矢向・新崎 2012, 160。前稿の A. 2. 4. 21 で、右ハネ付水平直角乙型曲胡麻を検討した。矢向・新崎 2012, 163。